

## 二刀流 世界一あと一歩

東京五輪を控える女子ほどは注目されないが、男子ソフトボールの世界も熱い。その日本代表を10年近く支えるエース中のエース。6月にチェコであった世界選手権大会は「二刀流」で投打にフル回転し、日本を過去最高成績に並ぶ準優勝に導いた。

16カ国が争った大会で、日本は予選リーグから9連勝で決勝へ。アルゼンチンに2-3で惜敗し世界一は逃したが、5大会連続5位から躍進した。投げては6試合で防御率0・46、打っては22打数12安打5割4分5厘の打率を残した。

男子ソフト屈指の強豪・平林金属（岡山市）の主将で、普段は同市北区のグラウンドで練習に励む。10年近いキャリアでベテランの域に達した今、チームには自分を追って入社した選手もいる。モットーは楽しむこと。「勝たないと楽しめないが、勝つことだけが目標になると苦しい。どこかで行き詰まる」

球速129kmはトップクラ

## 男子ソフトボール日本代表 松田 光さん(32)



スのスピード。野球より約4・4倍短い14・02mの距離では、打者の体感速度は160km近く及ぶという。ドロップやライズボールなど6種の変化球を自在に操り、打者を翻弄する。

だが、走るのが苦手な身にはつらかった。野球の塁間が約27mなのに対し、男子ソフトは約14m。高校でソフト部を選んだのは、小学校時代の自信に加えて「走るのがしんどい」ことも理由にあった。

自身、世界選手権への出場は今回が4回目。アルゼンチンとの決勝は満を持して先発のマウンドへ上がった。2点を先制したものの、五回、バッテリー間のサインミスもあ

初は監督に相手にしてもらえなかった。それが高校2年の時、負傷した投手の代わりに投げてみたところ、100kmを超えスピードが出た。周囲は驚き、登板の機会が増えた。高校ではインターハイ、大学では全日本選手権のマウンドにも立った。

延長十回に勝ち越され、チームは敗れた。「めっちゃ悔しい。もう少しで世界一をとれたのに」。次の世界選手権は2年後。年齢を考えると日本代表への選出は厳しいかもしれない。だが「それでも挑戦したい」との思いが募る。

(沢田紫門)

## 若い世代の受け皿増を

——男子ソフトボールの現状は

小学校では競技人口が多いけど、中学になると野球を始めるなどして一気に減ってしまう。競技としてプレーする若い世代はまだ少ない。ただ年齢を重ねてから、野球からソフトボールに移る人が結構多くて、プレーヤーの母数はかなりある。競技というより、生涯スポーツの一つとして受け止められている。

——今後の目標は

日本では男子は野球、女子はソフトボールというイメ

ジが主流。五輪の正式種目に男子ソフトボールが選ばれたことは一度もありません。この現状をすぐに変えることは難しいが、今回の準優勝をきっかけの一つにしていきたい。

——具体的にどうしますか  
中学生になる段階で、受け皿が少ないのが一番の問題。受け皿を増やさないと始まらない。平林金属でもソフトボール教室を毎年開催し、全国各地に指導に行っています。少しずつ裾野を広げていくことが大事だと思っています。

まつだ・ひかる 千葉県出身。2010年入社。身長176cm、体重80kgで右投げ右打ち。18年の西日本リーグはMVP、最優秀防具賞、本塁打王などを総なめにした。スマホの野球ゲームが趣味で、座右の銘は「自分で選んだ道なら、楽しく歩け」。